



国際ロータリー第2660地区

地区委員会
活動計画書

1992～'93年度

ガバナー 山中文和

1992年7月11日(土)
於：新阪急ホテル

1992—'93年度国際ロータリー・テーマ



まことの幸福は人助けから

Real Happiness

is

Helping Others

Cliff Dochterman

クリフ・ダクターマン

1992—'93年度国際ロータリー会長

目 次

扉

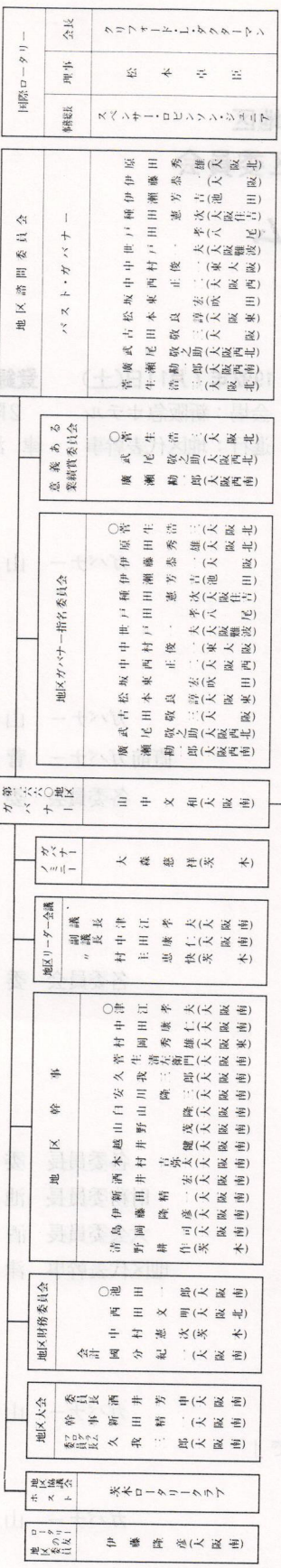
目 次

プログラム

合同地区委員会開催に当たって	ガバナー 山 中 文 和	5
地区ガバナー指名委員会		8
意義ある業績賞委員会		9
クラブ奉仕部門		
会員増強委員会		10
広報・雑誌委員会		11
規定情報委員会		12
職業奉仕部門		
職業奉仕委員会		13
ロータリーボランティア活動委員会		15
社会奉仕部門		
社会奉仕委員会		17
環境保全委員会		18
青少年奉仕部門		
青少年活動委員会		20
ローターアクト委員会		21
インターアクト委員会		24
国際奉仕部門		
世界社会奉仕委員会		26
青少年交換委員会		27
国際交流・平和委員会		31
ロータリー財団部門		
ロータリー財団委員会		33
財団国際親善奨学金委員会		34
財団増進委員会		36
財団学友委員会		37
研究グループ交換委員会		39
米山奨学部門		
米山奨学委員会		41
拡 大 部 門		
拡 大 委 員 会		44
ロータリーの友		45
財 務 委 員 会		46
地 区 大 会		48

1992～'93年度 国際ロータリー 第2660地区 組織図表

○：委員



国際ロータリー第2660地区
1992～'93年度 合同地区委員会

プログラム

1992年7月11日(土) 登録 9:30～
会場: 新阪急ホテル 2階 紫の間
進行: 地区代表幹事 津江孝夫

10:00	開会・点鐘 ロータリーソング「奉仕の理想」	ガバナー 山中文和
10:05～10:40	本会議 就任挨拶・参加者紹介 退任ご挨拶	ガバナー 山中文和 直前ガバナー 菅生浩三
10:40～11:50	委員会本年度の方針と活動	各委員会 委員長
11:50～12:45	休憩・昼食	
12:45～14:15	本会議 委員会本年度の方針と活動	各委員会 委員長
14:15～14:30	休憩	
14:30～14:50	本会議 委員会本年度の方針と活動 地区資金の運用について 地区年次大会について ガバナー事務所運営について	各委員長 委員長 財務委員長 池田一郎 大会委員長 酒井芳申 地区代表幹事 津江孝夫
14:50～15:10	質疑応答	
15:10～15:15	閉会の挨拶 ロータリーソング「手に手つないで」	ガバナー 山中文和
15:15	閉会・点鐘	ガバナー 山中文和

合同地区委員会開催に当って

ガバナー 山 中 文 和

ロータリーは自分自身の幸せにもなる素晴らしい奉仕の場であります。今年度のRIのテーマは「まことの幸福は人助けから」という大変地味ですが、これこそロータリーの奉仕の原点とも言うべき、すがすがしいテーマです。

クリフォード・L・ダクターマン RI会長は「ささやかな身近な無欲の行為が私たち自身の心の中に、どれほど温かい幸福の喜びをもたらしていることでしょうか」と言っておられます。

子供が初めてよちよち歩きをする時、大人が無意識のうちに子供に手を差し伸べたときの、ほのぼのとした喜びと安堵感、これこそが今年のテーマの真髄だと思います。

また、ダクターマン会長は「私はロータリーの新しい奉仕のプログラムは提出いたしません。それよりも、昨年度に実践できなかったプログラムを前進させ、バランスのとれた奉仕プログラムを強く推進させたいと思います」と言っておられます。

蔵並前 RI理事は、ロータリーの奉仕活動は、オーケストラの演奏のようなものだと言っておられます。それぞれの楽器が勝手気ままに演奏したのでは音楽になりません。また、ある楽器が突拍子もない強い音で演奏されてもハーモニは壊れてしまいます。コンダクターの指揮によって、全体の調和がとれてこそ、すばらしい交響楽が生まれるのです。バランスのとれた、調和のとれた奉仕こそ素晴らしい成果を生むと言っておられます。

今年度、当地区は「奉仕の理念と実践の調和」を図り「バランスのとれた奉仕」を活動方針とします。奉仕活動を強力に推進するために、各クラブの会長・幹事をはじめ各委員長のリダーシップの養成が特に望まれています。ともすれば地区委員長のみがひとりで活動されがちですが、出来るだけ地区委員とのコミュニケーションを密にいただき、全体で力強く活動くださることを切望いたします。

I クラブ奉仕部門

1. ベテラン会員と新会員、高齢会員と若年会員の親睦を増進する。
2. 退会を防止し、特に、会員が50名に満たないクラブに会員増強を強く要請する。
3. 増強は、ともすれば量的拡大にとらわれ勝ちだが、質的増強が伴わなければならない。全ての会員に対しインフォメーションの徹底を図る。
4. 本年1月の規定審議会で採択された諸規定に照らし、関連規定の改正を実施する。
5. 昨年度に整備されたビデオ・スライド銀行・卓話銀行をさらに補強し、あらゆる機会に活用するよう要請する。

II 職業奉仕部門

職業奉仕は、ロータリーの奉仕活動の中核をなすものであり、その基本理念は職業倫理の向上にある。自己の日常の業務を通じて、ロータリアン一人一人が襟を正し、社会の規範となるように努めなければならない。

1. クラブの全員に「ロータリアンの職業宣言」を配布し、職業奉仕に関するフォーラムを実施して、職業倫理の向上に努める。
2. 「違法駐車追放」の運動は、本年も継続する。「パークライトシール」の普及拡大を図り、この運動を実効あらしめる。
3. 環境保全の取り組みの一環として、産業廃棄物問題に対する意識の向上を図る。
4. 身障者の自活のための「職業相談プロジェクト」を推進する。
5. 地域住民の職業上の顕著な功績を表彰する。
6. ロータリーボランティア活動（RVIA）委員会を職業奉仕部門に併設して、ボランティア活動を啓蒙するとともに社会・国際奉仕部門と関係させながらボランティアの発掘に努める。

III 社会奉仕部門

1. 昨年度の地域対策室で研修した諸問題を実践に移す。
2. 障害者の自立問題に取り組む。
3. 高齢者対策を検討推進する。
4. 養護施設の子供たちの過去の白浜招待旅行、未参加者への配慮。(週末里親の紹介等)
5. 昨年度の環境問題についての「意識の高揚」を実践へ移行。

6. ブラジルで開催された地球サミットへの対応。
7. ライラに参加した青少年に対するきめ細かいアフターケアを促進する。
8. 青少年に対する奉仕活動の成否は、常にロータリアンの熱意にかかっているとの認識から、RAC、IACとの接触をさらに深め、密度の高いものにする。

IV 国際奉仕部門

1. WCS情報の交換による効果的な活動。
2. 全てのクラブが青少年交換プログラムに参加することを奨励する。
3. 交換学生OB、OG（REX）の活動を充実する。
4. メルボルン世界大会への参加を要請する。
5. 世界親睦活動（WFA）についての情報強化。
6. 財団への年次寄付目標を一人当たり120ドルとする。
7. 各クラブに1名以上のベネファクターを要請する。
8. 同額補助金に適応するプロジェクトを発掘する。
9. 次年度の研究グループ交換（GSE）の準備をする。
10. 財団学友の育成支援を強化する。
11. 1994～'95年度より実施されるシェア・システムの検討。

V 米山奨学部門

1. 米山奨学会への年次寄付目標を一人当たり2万円とする。
2. 積極的に米山奨学生のカウンセラーになることを奨励する。
3. 日本研究米山記念奨学生の実現に努力する。

VI 拡大部門

1. 2クラブの拡大を目標とする。

以上のようにロータリーの奉仕活動は多岐にわたっていますが、いずれも今日社会のニーズに即応したものです。奉仕の理念と実践がバランスよく保たれてこそ、真に実りある奉仕が可能になると確信しています。誰かがやってくれるだろうという、事なかれ主義を排し、一人一人が勇気を持ってこのテーマにチャレンジして頂くことをお願いいたします。

地区ガバナー指名委員会

委員長	菅 生 浩 三(大阪北)	委員	中 村 俊 一(東大阪)
委員	原 田 秀 雄(大阪北)	同	中 西 正 二(大阪西)
同	伊 藤 恭 一(大阪)	同	坂 東 宏(吹田)
同	伊 瀬 芳 吉(池田)	同	松 本 良 諄(大阪東)
同	種 田 憲 次(大阪住吉)	同	古 田 敬 三(大阪)
同	戸 田 孝(八尾)	同	武 尾 敬之助(大阪西北)
同	世 戸 一 夫(大阪難波)	同	廣 瀬 勘一郎(大阪西南)

- 1) 地区ガバナー指名委員会規約に基づき、ガバナー月信2号において、1994～'95年度の地区ガバナー・ノミニー候補者の指名案を各クラブより提出するよう要請し、その最終期限を9月末日とする。
- 2) 10月1日以降、出来るだけ早く指名委員会を開き、候補者の指名を行い、ガバナー月信6号乃至7号で公示し、7号乃至8号でガバナー・ノミニーの宣言を行う。

意義ある業績賞委員会

委員長 菅 生 浩 三 (大阪北)

委員 武 尾 敬之助 (大阪西北)

同 廣 瀬 勘一郎 (大阪西南)

- 1) ガバナー月信 2号において、選定基準と委員会に関する発表を行い、申請期限を10月末日とすることを公示する。(申請手続きについては手続要覧42～43頁参照)
- 2) 12月1日までに選考委員会を開催し、5クラブまでを限度として、受賞クラブを選び、ガバナーに送達する。
- 3) 各ロータリークラブに対して、幅広い奉仕活動の実践につき積極的に申請することを勧奨する。

ク ラ ブ 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 菅 生 浩 三 (大 阪 北)

会 員 増 強 委 員 会

委員長	山 本 三 雄 (大阪大淀)
委員	和 田 俊 一 (大阪平野)
同	八 田 昌 三 (豊中南)
同	中 西 敏 明 (吹田西)
同	山 崎 啓 一 (大阪平野)

会員増強とは、適格な会員を増加させ、クラブの活力を強化することです。私どもは、私どもの活動の成果を社会に提供して行く責務を負っていることの自覚の上に立って、その責務を実現するためにロータリークラブに入会し、ロータリアンとして活動を続けているものであります。適格な会員が一人でも多く私どものクラブに入会しクラブの活動に参加してくれれば、クラブのロータリー活動はそれだけ多様な充実した力強いものとなり、ロータリー活動の存在意義が社会的に高まることとなるわけです。

会員の一人一人が適格で、誠実な、ロータリー会員を選び、積極的に会員の増強に努力していただきたい。

活 動 計 画

1. 各クラブの会員増強意欲の盛りたてをはかり、会員増強推進フォーラムを企画し実行していただき、各クラブの会員増強を可能な限り新しい会員を獲得していただきたい。
2. 会員歴5年以上の方でまだ一人も会員増強をしていない会員に是非会員増強をしていただく、各クラブでの会員増強委員会の委員会活動を活性化していただくよう卓話及びスライドで増強委員会の活性化に努力する。
3. 50名未満のクラブの会員増強を前年に引き続き重点的に、各クラブ会員増強委員会

と接触し、会員増強意欲の推進を引き出すよう具体策を検討する。

4. 各クラブの会員増強の実態を調査し、減少クラブ、及び、増強出来ないクラブ、退会
会員の多いクラブ、の実態を究明し、原因の検討会を開く。
5. 職業分類表の充填及び未充填分類表を再考し、職業分類委員会及び会員選考委員会
の人々にも積極的に会員増強委員会に協力していただく。

広 報 ・ 雑 誌 委 員 会

委員長	足 達 忠 利 (吹 田)	〔ビデオ・スライド銀行〕
委員	福 西 幸 夫 (大阪心斎橋)	委員 中 村 覚 (大阪北)
同	木 戸 栄 久 (大 阪)	同 清 野 耕 作 (茨 木)
同	小 松 陽 一 郎 (大阪阪和)	同 新 田 久 治 (大阪中央)
同	竹 田 正 司 (大阪心斎橋)	同 木 村 孝 (大阪北)

活 動 計 画

1. 8月上旬にクラブ広報・雑誌委員長会談を開催し、本年度の地区としての基本的な考
え方を説明する。
2. 9月下旬に在阪主要新聞、放送、通信社の幹部とガバナーとの懇談会を開催。
3. 毎月一回、「ロータリー・広報ニュース」を発行し、マスコミを中心に約50社に送
付して、広報に務める。
4. 「ビデオ・スライド銀行」のビデオ作品を各クラブの卓話の時間に観ていただくよう
徹底した依頼活動を行う。
5. 「ロータリーの友」英語版を、各クラブの海外姉妹クラブに送付し、日本のロータリ
ーの現状の一端を知らせる。

規 定 情 報 委 員 会

委員長	土 井 正 裕 (大 阪 北)	〔卓話銀行〕
委員	赤 根 賢 治 (大 阪 阪 和)	委員 橋 本 崇 志 (大 阪 北)
同	大 原 健 司 (大 阪 東)	同 伊 藤 徳 次 郎 (吹 田)
同	播 磨 昌 幸 (大 阪 平 野)	同 岩 田 宙 造 (大 阪 南)
同	田 中 寿 秋 (大 阪 な に わ)	
同	野 上 五 夫 (豊 中)	

1. 1992年規定審議会で決まった諸規定改正点のクラブへの周知

「標準ロータリークラブ定款」「推奨ロータリークラブ細則」「手続要覧」の1992年7月1日からの改正点を、クラブ委員長会議を早期に開催して説明する等クラブへの周知に努める。

2. システム・マニュアルの改訂

- イ) 上記諸規定の改正に伴い、情報「システム・マニュアル」の改訂を行なう。
- ロ) この機会に、「クラブにおけるシステム・マニュアル利用の実態」および「マニュアルの内容等に関するクラブの意見」について、アンケート調査を早急に行ない、改訂の参考に資する。

3. クラブのロータリー情報活動の実態把握と対応

クラブにおけるロータリー情報活動の実態についても、アンケート調査を行い、これを集約して地区関係各位に配布するとともに、

- イ) 優れた活動および特色ある活動を行なっているクラブの事例を全クラブに紹介し、
- ロ) ロータリーの基本に照らして望ましくないと思われる事例については、対応を考える。

4. ロータリー理解推進月間(1月)

1月の「ロータリー理解推進月間」に、各クラブがロータリー情報の必要性を強調し、普及させるためのプログラムを実施することを要請する。

〈卓話銀行〉

- 1. 前年度の外部卓話講師の一部をクラブの意見を聴いて入れ替える。
- 2. 地区内各クラブから推薦を受けたロータリアンを、本年度の卓話講師に加える。

職 業 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 松 本 良 諄 (大 阪 東)

職 業 奉 仕 委 員 会

委員長 浅 沼 清太郎 (大 阪)
委員 北 村 巖 (大阪梅田)
同 大 木 令 司 (茨 木)
同 大 谷 國 明 (大 阪 東)
同 山 田 潤太郎 (大 阪)
同 布 川 宗 治 (大阪柏原)

1. 基 本 方 針

職業奉仕の意義、特に職業奉仕の新方針、職業宣言、四つのテスト、道德律の意義についての理解をより深めることを推し進める。

職業奉仕は、あくまでも会員個人が企業において、職業倫理の向上を目指す実践活動であるが、同時に、職業奉仕の新方針は、従来ともすればなおざりにされてきた、クラブ自身の任務、即ち、各クラブは個人が倫理基準に従って行動することを鼓舞育成すべき役割を担っていることを強調している。

特に本年度 R I 理事会は、ロータリーの活性化を図るため指導者（リーダーシップ）養成制度を導入し、職業奉仕部門においては、会員個人による積極的な活動を促すよう、各クラブがより一層リーダーシップを発揮して奨励することを期待している。

職業倫理の向上を目指すのはロータリアンのみではないが、世の中に沢山ある団体の中で、職業倫理の向上を目指して集まっているのはロータリーだけであり、その意義を再認識する必要がある。

2. 活 動 計 画

クラブ会員の職業倫理を高めるため、主として1990～'92年度実施の各活動を踏襲しこれを促進する。

(1) 卓話及びフォーラム

ア) 職業奉仕の意義・会員個人の職業倫理について

(「ロータリアンの職業宣言」の配布)

イ) 四つのテストの推進について

ウ) 違法駐車問題について

エ) 産業廃棄物問題について

オ) 身障者に対する「職業相談プロジェクト」について

(2) 会員の事業所見学

(3) 職業活動表彰

(4) 違法駐車問題解決に向けての具体的実践活動

1990～'91年度地区大会は、「地域社会の職業代表人として職業倫理の高揚を掲げるロータリアンは、その先達として会員及び会員の属する団体や企業の、マイカー通勤や業務用車両の持ち帰りの自粛を提唱し推進すること」を決議している。

そこで引続き、この大会決議に深くかかわる違法駐車問題の解決に向けての具体的な活動を介し、職業倫理の向上に努めるとともに、経済諸団体等との協調を進めて活動の拡大に努力する。

ア) 「パークライトシール」の普及拡大について

イ) 「めいわく駐車追放モデル事業所宣言」の拡大について

ウ) 「めいわく駐車追放啓発活動」への参加について

ロータリーボランティア活動委員会

委員長 杉本久仁一(八尾中央)

委員 小山隆三(大阪阪南)

同 四稜行雄(大阪阪南)

同 寺井種伯(大阪天満橋)

同 北浦信行(高槻東)

1. 部門変更

当委員会は、本年度から職業奉仕部門に変更された。

社会奉仕部門において、3年間という試験的プログラムとして取り上げられたが、所属を変更して、引き続き存続する事になった。

社会奉仕部門に於ける3年間の初年度、次年度には、ロータリーボランティア・ビューローの設立を中心に活動し、そして3年度には、ロータリアンの技能登録を行い、又個人の国際的ボランティア活動に対し、ガバナー表彰を受けた。

現在、ロータリーボランティア活動委員会設置クラブは14で、社会奉仕部門の所属である。

地区ロータリーボランティア委員会としては、この所属を職業奉仕部門に変更すること、又委員会の無いクラブでは、職業奉仕委員長が担当者を指名し、職務に当たる事としている。

2. 活動方針

ロータリアン個人の技能・知識が、ボランティアの奉仕に要求されている事実を認識し、技能登録をもとに、社会奉仕・国際奉仕委員会との連携により、テリトリー内・地区そして広く国際的に活用する方針である。

3. 活動計画

1. ロータリーボランティア活動委員会の担当者に、技能登録の呼び掛けをお願いします。

登録は、ロータリアンに限らず、家族・ローターアクト・ロータリー財団学友を対象とする。

2. ボランティア奉仕希望の事例の発見・要請は、四大奉仕委員長さんをお願いする。
3. 地区内のボランティアに必要なリストは、各クラブで保管し、地区においては、国際的にご奉仕頂ける方のリストの整備を行い、要請に応じて活用する。尚、国外の要請に対しては、国際奉仕委員長を通じて財団補助金の申請をお願いする。
4. 個人の国際的なボランティア活動に対して、前年度に引き続き、ガバナー表彰をお願いする。

社会奉仕部門

担当パスト・ガバナー 廣瀬 勘一郎 (大阪西南)

社会奉仕委員会

委員長	新津 敬直 (大阪西)
委員	福田 守 (大阪阪和)
同	吉山 公 (大阪中央)
同	亀井 龍彦 (大阪阿倍野)
同	木下 久則 (交野)
同	岡本 克持郎 (大阪城南)
同	村岡 大輔 (大阪西)
同	大橋 融 (大阪北淀)

活動計画

① 高齢者問題

- 社会奉仕活動のマニュアル
- A • 老人収容施設の場所、内容
- 高齢者雇用の際の政府からの助成金
- 美しく老いる為の心身の条件
- B • 寝たきりにならない為の10項目
- 痴呆判定のスケール
- C • S&C 海遊館招待
- (Senior, Children と付き添いの三世代)
- D • 高齢者の作文募集、審査、表彰
- E • 特別養護老人ホームの介護者への憩いの場提供
- F • GSC ロータリアンの70才以上 高齢者の交流

80%を占める元気な高齢者の方々が相集い、親睦を深め、情報を交換し、加えて病弱の方々、元ロータリアンの方々を助け合うクラブとする目的です。特にロータリークラブに屋上屋くを架すものでなく、柔軟なソフトな組織にしたいものである。

② 地域社会への社会奉仕

A・全養護施設の紹介

B・身障者雇用問題

・助成金の数々 } 紹介
・身障者の特技 }

C・養護施設の子供達の過去の白浜招待旅行、未参加者への配慮

D・週末里親の紹介

E・視覚障害者への配慮

F・太陽の家訪問（障害者自立施設）

③ 社会奉仕活動事例集の編集提供

以上はもとより本来の社会奉仕活動の理念に基づくものであり、又昨年度活動した地域対策室の成果をふまえ、勘案した計画である。

環 境 保 全 委 員 会

委員長 岡 部 次 郎（箕 面）

委員 遠 藤 涉（大 阪）

同 藤 江 正 謹（大阪阪和）

同 南 克 昌（大阪南西）

同 室 木 啓 一（池田くれは）

同 浜 谷 利 一（東 大 阪）

同 北 野 武 治（門 真）

同 近 藤 雅 臣（千 里）

委員会設置後2年間、担当松本P Gのご指導のもと委員会活動を進めてきた。当初は地球規模の環境問題にロータリーとして如何に対応してゆくべきかについては正直云って戸惑いを感じた。これは各クラブにお願いしたアンケートの回答からも同じことがうかがえた。それで初年度は環境問題についての「意識の昂揚」を、2年度は「実践への移行」を各クラブにお願いした。実践といってもロータリアン個人が、またクラブ単位でなし得ることには限界があり、実行可能な身近なところからとならざるを得ないのが実情である。

委員会行事としては4月7日に廃棄物処理の現場である大阪北港埋立処分地と住之江焼却工場にて研修・見学会を開き、各クラブからの参加者にクラブ活動の参考にしていただくようお願いした。

当年度は過去2年間の活動をふりかえり、下記の如く委員会活動を進めてゆきたい。

記

- ◎本年度も各クラブに画一的プロジェクトを押しつけることなく、各クラブの自主的活動を積極的に推進していただく。これは委員会の基本姿勢であり、現実に単独クラブ或は地域を同じくする数クラブ合同で意義ある活動を実行していただいている。
- ◎クラブ環境保全委員長(担当者)会議を開催し、他クラブの活動を紹介し参考に供する。
- ◎「意識の昂揚」については既にロータリアンは卒業したものとし、職域・地域を対象として実施していただくよう各クラブにお願いする。例会の一回の卓話のみが年間活動のすべてであっては困ると思う。
- ◎本年度も環境問題について実地研修・見学会を明春に実施したい。計画としては「水質問題」をとりあげたいと考えている。
- ◎環境保全問題はR Iで、また全地区で積極的に取り組んでいる問題なので、当地区に対してもいろいろと報告を求められることも多く、またアンケートに答える機会も多いが、これらすべてに対して当委員会としては誠実に対応してゆきたい。
- ◎地球サミットが6月にブラジルで開催され地球規模の環境問題への対応が論議される。ロータリアン個人、クラブ単位での身近な実践活動の域を越えて、ロータリーとして如何に貢献すべきか、何がなし得るかを長期的視点で考える初年でありたいと念願する。

青少年奉仕部門

担当パスト・ガバナー 戸田 孝(八尾)

青少年活動委員会

委員長 西 正中(大阪城北)

委員 北田 他実夫(高槻東)

同 露口 佳彦(大阪西南)

同 桂 知良(大阪城東)

同 対馬 祥全(茨木東)

同 片山 通夫(枚方くずは)

同 新堂 庄二(大阪西)

青少年奉仕には青少年に対する奉仕活動とともに、ロータリーの精神と理念を次の世代に伝えるという重要な役割があります。このことを十分に意識して、これまで通りのプログラムを実施します。

1. ライラRYLA(青少年指導者養成セミナー)の実施

目的と内容への理解が進みましたので、青少年の参加が大変多くなりました。最近ではチームプレイとか環境問題とかのテーマを掲げて、活発な意見交換を行ない、参加青少年の意識に、大きな刺激を与えています。これまで通り秋と春の2回実施します。

①山のライラ ホスト：茨木東RC

1992年9月12日～14日 大阪府立青少年野外活動センター(能勢町)

②海のライラ ホスト：枚方くずはRC

1993年5月2日～4日 大阪府立青少年海洋センター(岬町淡輪)

2. 少年少女ニコニコキャンプの実施

小学校5・6年生(4年生と中学1年生の参加も可)を対象に、2泊3日のキャンプ

を通して、自然と親しみ、集団生活を体験して、新しい友だちも作ってもらおうというプログラムです。また、ライラの参加者やRAC・IACの青少年をリーダーにして、リーダーとしての実地訓練をすることも目的です。昨年参加したリーダーは子どもたちとの交流を通して、素晴らしい経験を得たようです。

今年度は初めて海で実施いたします。

1992年8月7日～9日 大阪府立青少年海洋センター（岬町淡輪）

ホストクラブ：大阪西南RC

3. 近隣四地区青少年活動委員長会議

昨年は開催できませんでしたので、今年度は秋に開催します。

4. ライラマニュアルの改訂

最近の資料を加えて改訂版を発行いたします。

ローターアクト委員会

委員長 北村 英一（吹田）

委員 目 幸 等 僊（大阪天満橋）

同 北 方 龍 一（大阪西）

同 小 西 眞 明（寝屋川）

同 伊 藤 七 郎（大阪東）

同 大 槻 太 郎（大阪淀川）

- (1) 地区内19RACは会員増強、出席率等困難な問題を抱えながらも若いエネルギーに充ちた夫々のクラブらしい特色のある活動を展開している。又さまざまな地区行事に積極的に参加し、各クラブ間の交流は年毎に密接になり地区としてまとまった良い雰囲気の中で成長して来ているのはたいへん喜ばしい。之は各提唱RCの援助、指導による効果が次第にもり上りをみせて来たのであろう。各提唱RCの一層のご協力をお願いしたい。

- (2) 本年度の地区ローターアクトのターゲットは「咲かそう RACの花、広げよう RACの輪」で、ソフトに又着実に RACの広がりとその華やかな開花を計ろうとするもので、地域社会への活動の場を一層広げて行く事を目指している。
- (3) 今年度最大の目標は新クラブの結成にある。19番目の吹田 RACが設立されたのが1986年、現在迄6年間も新クラブが誕生していない。幸に山中ガバナーは青少年育成に見識、経験共に深く、積極的な抱負を持って居られるこの機会に是非とも数クラブの結成にこぎつけたい。提唱の気運のあるクラブに地区委員及び RAC地区役員で積極的に援助を行うと共に、地区内各 RACに RACの PRを展開したい。
- (4) 本年度の海外研修はシンガポール及び香港とし、現地 RACとの親善交流と社会奉仕活動を重点的に行い、観光、ショッピング等は出来るだけ控える計画を立てている。
- (5) 今年度より新しく世界ローターアクト DAY(3月14日)が定められたので、従来日本で行われてきた「全国统一 RACの日」(9月)を之に統合し、地区行事としてチャリティウォークを開催し、広く一般市民の参加を呼びかける事にした。

1992～93年度 ローターアクト役員

地区代表	磯田 郁子(大阪淀川)	地区会計	崎尾 正美(大 東)
地区幹事	井上 大輔(吹 田)	大阪ゾーン 代 理	吉田 征弘(大 阪) 天満橋
地区副幹事	三浦 浩秋(大阪南)	北大阪ゾーン 代 理	田上 尚禎(池 田)

地区 RAC一覧表(ABC順)

北大阪ゾーン (7クラブ)	枚方 RAC、茨木 RAC、池田 RAC、守口 RAC、寝屋川 RAC、 吹田 RAC、高槻 RAC
大 阪 ゾ ー ン (12クラブ)	東大阪 RAC、大阪 RAC、大阪東 RAC、大阪平野 RAC、 大阪北 RAC、大阪南 RAC、大阪西 RAC、大阪西南 RAC、 大阪住吉 RAC、大阪天満橋 RAC、大阪淀川 RAC、八尾東 RAC

1992～'93年度 国際ロータリー第2660地区ローターアクト年間活動計画

開催日			行事	主催・ホスト	
'92年	7月	19日	日	第2回海外研修オリエンテーション	地区
		26日	日	リーダーシップフォーラム及び地区研修会	R A C
		30日	木	前期提唱RCローターアクト正副委員長会議	地区
	8月	7～9日	金～日	少年少女ニコニコキャンプリーダー奉仕(岬町)	地区・青少年活動委員会
		23日	日	第3回海外研修オリエンテーション	地区
		30日	日	北大阪ゾーン交流会	R A C
	9月	12～14日	土～月	RYLAセミナー参加(能勢町)	地区・青少年活動委員会
		19～23日	土・水・祝	海外研修(シンガポール 香港)	地区
	10月	25日	日	RAC地区大運動会	R A C
	11月	7日	土	海外研修反省会	
12月	6日	日	RC、RACジョイントパーティ	R A C	
'93年	1月	14～17日	木～日	北大阪ゾーンスキーツアー	R A C
		28日	木	後期提唱RCローターアクト正副委員長会議	地区
	2月	7日	日	大阪ゾーン献血	R A C
		21日	日	リーダーシップフォーラム	R A C
	3月	14日	日	世界ローターアクトDAY	R A C
	4月	11日	日	北大阪ゾーンスポーツ大会	R A C
		24日	土	地区ロータリー年次大会参加	地区
		25日	日	大阪ゾーン交流会	R A C
	5月	2～4日	日～火	RYLAセミナー参加(岬町)	地区・青少年活動委員会
		8～9日	土・日	アジア第1、第3ゾーンローターアクト研修会(札幌)	第2510地区
		16日	日	地区ローターアクト年次大会	R A C
	6月	13日	日	新旧理事役員会	R A C
		27日	日	大阪ゾーンスポーツ大会	R A C

インターアクト委員会

委員長 中島孝夫(八尾)
委員 和田健(大阪阪南)
同 岡部州雅(大阪城南)
同 小西欣一(大阪南)
同 松下文武(大阪阿倍野)
同 吉本晴之(大阪)

- 1) 当委員会は、提唱9RCの理解と協力を得て、加盟校顧問、インターアクターと協調、本年度地区運営方針にもとづき、インターアクトの理想を実現すべく、活発な活動を展開する。
- 2) 当年度の当番校、金光八尾高等学校(提唱 八尾RC)が計画したサブテーマ「水・私達の環境を見つめよう」を各クラブの活動に取り入れる。
- 3) 海外研修は、現地インターアクトと交流し、相互理解を深める事を主目的とし、現地インターアクトと活動のありかたフォーラムを計画する。
ホームステイによる現地の家庭生活にふれ、家庭と友好を深めながら、相互の理解を得る。
訪問地 米国カリフォルニア ロサンゼルス 6日間
- 4) インターアクトクラブ未提唱のロータリークラブに設立を働きかける。
学校単位のインターアクトクラブ提唱と共に、地域内でのロータリー手づくりのインターアクトクラブ設立を推進する。
- 5) 地区委員会を充実し、地区としてのインターアクト運営方針を委員会が策定、諸活動の理解、運営分担を検討する。

1992～'93年度 国際ロータリー第2660地区インターアクト委員会年間予定表

年 月 日	行 事	場 所	時 間
1992 7. 13 (月)	提唱RC. IA正副委員長会議	薬業年金会館	PM 2:00
7. 25 (土)	加盟校 顧問会議	金光八尾高校 内	PM 5:00
8. 29 (土) 30 (日)	第1回海外研修オリエンテーション	大阪産業大学高校 みさき研修センター	AM10:00～
9. 12 (土)	第2回海外研修オリエンテーション	大阪府 中小企業会館	PM 2:00
10. 3 (土)	リーダーシップフォーラム ②	金光八尾高校 内	PM 2:00
10. 17 (土)	地区委員会	南海サウソタワー ホテル大阪6階	PM 2:00
10. 31 (土)	年次大会準備日	金光八尾高校 内	PM 5:00
11. 1 (日)	第2660地区IA年次大会	金光八尾高校 内	AM10:00
11. 17 (火)	顧問会議 ③	金光八尾高校 内	PM 5:00
12. 24 (木) ～ 29 (火)	海外研修 ロサンゼルス	ロサンゼルス	
1993 1. 23 (土)	海外研修反省会	未 定	未 定
2. 9 (火)	海外研修顧問反省会	未 定	未 定
4. 17 (土)	顧問会議 ④	金光八尾高校 内	PM 5:00
6. 未定	新入生歓迎会	未 定	未 定

国際奉仕部門

担当バスト・ガバナー 坂 東 宏 (吹 田)

世界社会奉仕委員会

委員長	堀内 顕 (八尾東)
同	西原 漸 (高槻東)
同	藤井 宏一 (大阪西北)
同	吉川 謹司 (東大阪東)
同	横山 守雄 (大阪中央)
同	堀 訓也 (大阪心斎橋)
同	坂本 旭 (大阪東淀)
同(ガバナー)	大森 慈祥 (茨 木)

I 活動方針

「世界社会奉仕活動は、ロータリアンの成熟のバロメーターである。」今、世界社会は苦しんでいる。世界人口の2/3の人々は、栄養失調、飢餓、貧困のために、その日一日を生きるために苦闘している状態である。

ロータリーの世界社会奉仕(W.C.S.)は、地区と地区、またはクラブとクラブの協力、その他の方法で生活の向上、自立のための開発の援助を主としながら、国境を越えて奉仕をする部門である。

過去の顕著な実績に加えて、地区内ロータリアン全員参加を目指し、充実した意義ある奉仕が展開できるように地区プロジェクトを計画すると共に、情報の交換や協力を励まし、効果的な活動を実施するために努力する。

II 活動計画

1. 全クラブ内に世界社会奉仕担当委員を置くように奨励する。

2. W.C.S.奉仕の理解を深め、かつ積極的に協力し、活動できるように広報活動を行う。
3. 援助の必要を調査、視察する旅を8月4日～8月14日の期間で実施する。
4. 世界に頻発する災害発生時には、各クラブの協力を得て募金し、適切な救援活動に参加する。
5. 各クラブからは一人当たり5,000円の拠出金を受け、地区合同のプロジェクトを実施、奉仕する。但し、会員一人当たり5,000円以上負担のクラブ単独WCS事業実施のクラブは除く。

青少年交換委員会

委員長	八木 頼 夫 (大 阪)
委員	入 江 和 夫 (高 槻)
同	中 一 皓 (枚方くずは)
同	泉 潔 (豊中-大阪 国際空港)
同	三 宅 一 嘉 (大阪東南)
同	毛 利 哲 三 (大阪西南)
同	村 上 白 士 (大阪城北)
同	林 輝 久 (大 阪 東)
同	近 藤 眞 道 (高 槻 西)
同	木 川 稔 (摂 津)

I、主な年間活動

1. 交換学生派遣受け入れに関する折衝実務。
2. 派遣及び受け入れ交換学生オリエンテーション開催。
3. 交換学生歓送迎会。
4. ホストクラブ、ホストファミリーのオリエンテーション開催。
5. 来阪学生に就いてホストファミリーよりの率直な意見の聴取。

6. 来日学生を囲む新年会をREX(OB)学生と共に開催し、来日学生の4ヶ月余の期間における日本語能力向上度を試聴する。
7. 派遣された日本人学生よりのアンケート調査(待遇及び小遣い等に就いて)。
8. 交換国へ派遣される日本人学生の為に交換国地区委員長並びに其の関係者よりのアドバイスに就いてアンケート調査をする。
9. 来日学生が通学する高等学校選択の検討を続行する。
10. 来阪学生の感想文発行並びに学生受け入れ高校、ホストクラブ、ホストファミリーへの感謝状贈呈及び帰国学生への青少年交換留学ディプロマ授与。
11. 広島研修旅行、禅寺一日研修等を計画。

II 青少年交換計画と交換ファンド

青少年交換は、国際理解、国際親善、善意の交換を目標とした手造りの奉仕活動であると考えられる。従って関係者の苦勞と忍耐には心から感謝したい。

今年度(1992~1993年)と前年度(1991~1992年)の長期、短期交換の状況は別記の通りである。

青少年交換は一般の学生のみならずロータリアンによる多大の奉仕援助で成立するものであるから、ロータリアンの子弟の積極的な参加を求めたいと思う。

前年度より増額を頂いた結果、交換ファンドの為に地区の全員から年間3,000円の拠金を頂き、それを交換計画実施経費として学生交換ホストクラブの援助費等に当てる事とする(長期交換に対してのみ)。

レックス(交換学生OB・OG会)にその活動が機能を充実していくよう援助し、来日及び派遣交換学生のオリエンテーション等に際して、各自の体験を生かし具体的な交換生活を説明させる。またレックス学生には、ローターアクト、インターアクトに入るよう薦め、ロータリーとの縁が切れないようにしたい。

毎年度、新たに長期、短期青少年交換に参加するクラブを見出し4~5年に一度は各クラブが青少年交換を実施されるよう求めたい。

I] 長期派遣学生 (1992~1993年)

No	氏 名	性別	年齢	ホ ス ト R C	地区	国 名
	スポンサーRC			住 所		
1	佐 藤 真 理 子	女	16	ALBINA, OREGON	5100	U S A
	大 阪 鶴 見			〒538 大阪市鶴見区放出東3-9-6		
2	菊 地 玲 子	女	16	DOWN TOWN FT. WAYNE, INDIANA	6540	U S A
	高 槻 西			〒569 高槻市玉川2丁目15-303		
3	竹 瀨 喜 美 子	女	15	IDAHO	5400	U S A
	大 阪 東 南			〒639-02 奈良県北葛城郡香芝町真美ヶ丘4-10-33		
4	山 崎 正 美	女	16		1810	ド イ ツ
	大 阪 東 南			〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-10		
5	柴 田 清 児	男	15			ド イ ツ
	大 阪			〒560 豊中市緑丘1-8-11	☎ 06-840-1154	
6	三 本 知 布	女	17	ST LOUIS PARK, MINNESOTA	5950	U S A
	大 阪 北 淀			〒665 宝塚市千種4-4-13		
7	佐 藤 頼 子	女			7080	カ ナ ダ
	大 阪 東 淀		〒532 大阪市淀川区三国本町3-15-14	☎ 06-393-9888		

(注) No.1は、1992年4月~1993年3月

No.2~7は、1992年8月~1993年7月

II] 長期受入学生 (1992年~1993年)

No	氏 名	性別	年齢	スポンサーRC	地区	国 名
				ホ ス ト R C		
1	BALDWIN, TONI E.	女	16	ONE TREE HILL, AUCKLAND 東 大 阪 中	9910	ニュージーランド
2	KAWAUCHI, FABIO M.	男	16	SAO PAULO SUDESTE 東 大 阪 東	4420	ブラジル
3	BARBOSA GARCIA, GUSTAVO P.	男	17	SAO JOSE DO RIO PRETO 大 阪 東 南	4480	ブラジル
4	SCHERZ, TINA E.	女	17	WEST MOUNT 高 槻 西	7040	カ ナ ダ
5	THIRY, PAMELA	女	16	DAUN EIFEL 大 阪 東 南	1810	ド イ ツ
6	JASKILKA, JULIE R.	女	16	TIGARD, OREGON 大 阪 鶴 見	5100	U S A
7	ERDMANN, LINDY M.	女	18	ST, CLOUD, MN 大 阪 北 淀	5950	U S A
8	WALTER, EVAN A.	男	17	SAN ANTONIO, TX 大 阪 南	5840	U S A
9	O'BRIEN, MIKE P.	男	16	BURLINGTON LAKESHORE 大 阪 東 淀	7080	カ ナ ダ

(注) No.1は、1992年1月~1993年1月

No.2は、1992年4月~1993年3月

No.3~9は、1992年8月~1993年7月

III] 短期派遣学生 (1992年)

No	氏 名	性別	年齢	ホ ス ト R C	地区	国 名
	スポンサーRC			住 所		
1	岩 本 緑	女	23	PFORZHEIM	1830	ド イ ツ
	八 尾 中 央			〒581 八尾市太田新町2-15		
2	植 田 綾 子	女	21	MILANO LINATE	2040	イ タ リ ア
	箕 面 中 央			〒665 宝塚市雲雀丘山手1-2-35		
3	滝 川 健 一 郎	男	21	VIMERCATE BRIANZA EST	2040	イ タ リ ア
	吹 田 西			〒564 吹田市江の木町29-12		
4	平 尾 倫 子	女	20	VIMERCATE BRIANZA EST	2040	イ タ リ ア
	枚 方 く ず は			〒573 枚方市西船橋1-2-12		
5	張 惠 理	女	21	CAMTU ERBA	2040	イ タ リ ア
	大 阪 東			〒659 芦屋市山手町12-15-1202		
6	小 川 克 己	男	20	LUGO	2070	イ タ リ ア
	吹 田 西			〒565 吹田市古江台1-5-12		

(注) 1992年7月～8月

IV] 短期受入学生 (1992年)

No	氏 名	性別	年齢	スポンサーRC	地区	国 名
				ホ ス ト R C		
1	GAMBERA MASSIMO	男	22	MILANO LINATE 箕 面 中 央	2040	イ タ リ ア
2	TERRAGINI PIETRO	男	18	VIMERCATE BRIANZA EST 吹 田 西	2040	イ タ リ ア
3	ROGGIA LUIGI	男	18	VIMERCATE BRIANZA EST 枚 方 く ず は	2040	イ タ リ ア
4	CATTANEO BARBARA	女	21	CAMTU ERBA 大 阪 東	2040	イ タ リ ア
5	CATTANEO FEDERICO	男	19	CAMTU ERBA 大 阪 東	2040	イ タ リ ア
6	CAMANZI GIULIO	男	21	LUGO 吹 田 西	2070	イ タ リ ア
7					1830	ド イ ツ

(注) 1992年7月～8月

国際交流・平和委員会

委員長	松本一夫 (大阪中央)
委員	野村浩司 (大阪港)
同	三好秀弘 (八尾中央)
同	小山雄三 (大阪東)
同	玉井三貴男 (大阪東淀)
同	笹井敏之 (大阪阪和)

1) メルボルン国際大会

1992～1993年の国際大会は、オーストラリア・メルボルンで1993年5月23日～26日の4日間開催されます。観光地としても大変人気のある場所なので、多くの参加者が期待されますが、あらゆる機会を通じてメルボルン国際大会参加をアピールしたい。

2) 姉妹・友好クラブ

姉妹・友好クラブの交流も各クラブとも活発になってきてはいるものの、実際の具体的な交流がどのような形で行われているか、アンケート等を行って、各クラブの状況を把握し、ガバナー月信に掲載して、他クラブの交流を促す。又、まだ姉妹・友好クラブを持たないクラブに積極的にアピールしていきます。

3) 友情交換

地区各委員長会議およびガバナー月信等を利用して、知識の充実、各ロータリアンの意識の向上を目指す。

4) 世界親睦活動 (WFA)

色々の趣味を通じて国際交流を図っている親睦クラブがあるということを、委員長会議を通じて、各ロータリアンへ通達し、その後実際に参加希望者がいれば、積極的に案

内を行う。

5) 平和委員会

1993年2月の国際理解月間中に各クラブにおいて平和プログラムを開催していただき、結果報告をしてもらい、ガバナー月信等で紹介する。

6) 伝 達

国際交流及び平和委員会に関する通知、伝達事項及び国際大会に関する事項はガバナー月信にできるだけ掲載し、各クラブへ伝達していく。

〈そ の 他〉

各クラブにおいて国際交流・平和委員会のないクラブには設置のお願いをする。

ロータリー財団部門

担当パスト・ガバナー 古田 敬三(大阪)

ロータリー財団委員会

委員長 古田 敬三(大阪)

委員 塩川 二郎(千里)

同 細江 重(大阪東淀)

同 田中 穰二(大阪西南)

同 大井 勝利(東大阪西)

ロータリー財団委員会の責務

1. ロータリー財団が世界理解と平和の為に極めて重要なプログラムを実行しつつあることを地区ロータリアンに認識して貰うことにつとめる。
2. 地区ガバナーが地区内各クラブが財団プログラムを推進するにつき援助協力する。
3. 財団各小委員会活動の調整を図る。
4. ガバナーの決定した1992～'93年度一般寄付額の目標達成に協力する。
5. 財団の新しいシェア・システムについて地区内各クラブに説明、今後の理解協力を求める。
6. 地区大会において表彰されるべきロータリー財団特別功労章、ロータリー財団功労章、ロータリー財団地区奉仕賞、各候補者をガバナーに推薦する。

財団国際親善奨学金委員会

委員長	塩川二郎(千里)
委員	名張隆政(吹田)
同	大川進一郎(大東)
同	大野真義(高槻)
同	西原明(大阪心斎橋)
同	泉亮(四条畷)
同	小野典郎(大阪阿倍野)

本年度の活動計画

1. 1993～'94年度奨学金受領候補者の地区選考は、本年6月13日および20日の二次にわたって実施されたが、各候補者について地区確認事項を記載した申請書を、7月末までに財団本部に送付予定。
2. 財団本部から合格内示の送付あり次第(10月頃)、奨学生および顧問ロータリアン合同の第1回オリエンテーションを開催し、来年3月に第2回として中間報告を行い、5月には壮行会を兼ねて第3回目を催す予定。また、その機会に適当な講師を招き、文化、宗教、経済、マナー等のレクチャーを実施する。
3. 本年12月19日の各クラブ財団委員長会議では、奨学生の現況を報告するとともに、1994～'95年度から適用されるシェアシステムについて説明する予定。
4. 1994～'95年度奨学生についての申請書受付は、クラブ受付締切りを1993年4月下旬、ガバナー事務所受付締切りを5月中旬とし、選考試験は6月中に二次にわたって実施する予定。

本年度（1992年9月～93年4月）留学予定者一覧

氏名	年齢	性別	スポンサー クラブ	顧問 ロータリアン	留学先	課程
日比野 容子	20	女	箕 面	宮 田 純 夫	ド イ ツ	B
伊 藤 公 一	23	男	大阪平野	佐 野 元 英	フ ラ ン ス	B
日比野 真己	25	女	守 口	疋 田 茂 雄	イ ギ リ ス	A
石 田 京 子	22	女	枚方くずは	中 一 皓	ア メ リ カ	A
道 券 康 充	25	男	茨 木 東	山 崎 秀 夫	イ ギ リ ス	A
杉 山 賀 津 子	29	女	大阪城北	川 村 一 郎	ア メ リ カ	A
中 本 恭 平	30	男	大阪住之江	木 村 護	イ ギ リ ス	A
野 中 慶 子	38	女	大阪住之江	李 景 禹	ア メ リ カ	C
杉 山 朗 子	35	女	大阪天満橋	西 海 栄 悦	ア メ リ カ	C
林 奈 津 子	26	女	高 槻	梶 田 政 直	ア メ リ カ	A
石 賀 良 子	22	女	高 槻	梶 田 政 直	イ ギ リ ス	A
山 田 知 己	29	男	吹 田	佐 藤 庄 治	ア メ リ カ	A
内 堀 朝 子	25	女	池 田	津 川 正 幸	ア メ リ カ	A
建 林 正 彦	26	男	高 槻 東	樋 口 道 夫	ア メ リ カ	A
藤 井 洋 子	25	女	高 槻 東	樋 口 道 夫	ア メ リ カ	A
北 野 利 一	24	男	大阪阿倍野	池 内 秀 夫	イ タ リ ア	A
池 田 祐 子	26	女	大阪阿倍野	柿 木 清 司	ス イ ス	A
辻 本 真 紀 子	22	女	大阪阿倍野	岡 田 曄 昌	ス ペ イ ン	A
辻 野 美 法	25	女	大阪阿倍野	小 西 浩 二	ポ ル ト ガ ル	A
早 柏 由 紀	23	女	大阪西南	大 谷 透	イ ギ リ ス	A
柴 田 千 早	24	女	大阪西南	毛 利 哲 三	ア メ リ カ	A
田 口 み づ き [*]	23	女	大阪西北	築 添 正	フ ラ ン ス	A

*前年度

財 団 増 進 委 員 会

	委員長	田 中 穰 二 (大 阪 西 南)
	同	執 行 経 世 (枚 方)
	同	柳 澤 忠 麿 (大 阪 住 之 江)
	同	橋 本 孝 司 (大 阪 大 手 前)
	同	谷 口 勉 (大 阪 難 波)
	同	矢 部 文 治 (大 阪)
	同	畑 田 豊 (大 阪 城 南)
	同	山 口 幸 雄 (八 尾)

活 動 方 針

- 1) 地区ロータリー財団委員長を中心として、財団各小委員会との緊密な連絡の下に、ロータリー財団の意義や活動に対するロータリアンの認識と自覚を深めると共に、財団プログラム推進のための金銭的支持と参加をもとめる。
- 2) 本年度の一般寄付目標額を1人当り120ドル以上とし、その達成につとめる。
- 3) 1994～'95年度より実施されるシェア・システムにつき検討し情報を収集する。

活 動 計 画

- 1) 増進委員会を適時開催して、地区および各クラブの現況を把握し、各クラブに必要な情報・資料を提供して増進につとめる。またガバナー月信11月号および4月号にその成績を発表する。
- 2) 各クラブに対してポール・ハリスフェロー、ポール・ハリス準フェローおよびマルチプルポール・ハリスフェローの増加をお願いする。
- 3) 9月26日(土)開催のクラブ財団委員長会議をホストし、各クラブ委員長と地区財団関係者との連絡を深め財団増進活動の円滑な推進をはかる。
- 4) ロータリー財団月間(11月)には各クラブにそれにふさわしい行事の実施を要請する。

5) 財団創立75周年に際して要請されているベネファクター^{*}(1995～'96年度までに各地区で最低75名)の勧誘に努力する。

6) IGF組別に委員が下記の如く担当し、財団活動の報告と情報を提供する。

組	開催日	ホストクラブ	担当委員
8	9月19日	大阪天王寺	畑田 豊
4	10月3日	八尾東	山口 幸雄
7	10月17日	大阪南西	谷口 勉
1	1月23日	池田	橋本 孝司
5	2月6日	大阪堂島	田中 穰二
6	2月20日	大阪城	矢部 文治
3	3月6日	四条畷	執行 経世
2	3月13日	高槻西	柳澤 忠麿

^{*}ベネファクター(後援者)とは遺言または最終遺産計画に世界理解と平和のためのロータリー財団基金に米貨1,000ドル以上を寄付する旨書きをしるしたことを財団に通知した人、または米貨1,000ドルを基金に無条件寄付した人をいう。

財 団 学 友 委 員 会

委員長 大井 勝利 (東大阪西)

委員 西村 一夫 (池田)

同 杉森 芳雄 (東大阪東)

同 野村 正勝 (箕面中央)

同 真鍋 昭三 (大阪北)

今年度の財団学友委員会の活動方針をPSC(パストサービスクラブ)を中心として活動致したいと思います。

P S Cと学友委員会の課題

- (1) P S Cメンバーの自主的活動の定例会議の場所として田川元学友委員長時代に決められた喫茶店平野屋3階に集合し次年度出発予定財団奨学生とその顧問ロータリアン及び奨学生OBであるP S Cメンバーと学友委員会委員との合同例会として実行したいと思います。(2、4、6、9、11月第1金曜日午後6:30より)
- (2) 年1回のP S C総会(今年度は8月22日(土)午後5:30~YMCA会館)には1992年度帰国歓迎報告会にはオブザーバーとして次年度出発予定奨学生とその顧問ロータリアンも参加していただきたく思いますので関係委員会とも打ち合せをしたいと思います。
- (3) 帰国奨学生がスポンサーロータリークラブでの報告義務完了後P S Cメンバーとしてメンバー同志の交流を深め将来ロータリークラブに入会する事に先駆けた財団奨学生パーストサービスを海外経験を生かして出来るように心掛ける気持になれるようにする事が我々ロータリアンとしての財団学友委員会の大事な役目であると思います。
- (4) 財団学友委員会とP S Cの役割り
 - (イ) 財団奨学生は出発前にロータリーの考え方を学ぶ機会が少なく留学先の国と志望校には興味を多分に持っているがロータリー活動を理解して奉仕の一部として奨学生制度を活用しようという目的意識を持つ気持が大事だと思われるのでその点について一緒に話し合いをしたいと思います。
 - (ロ) 帰国後義務的にスポンサークラブとその近隣クラブへは海外体験談の卓話に行くがその後ロータリーの経験を継続的に将来に結び付けて自己啓発の機会がない為帰国後ロータリークラブとの交流において距離感が出来、数年でロータリーと自然疎遠となる為そのクラブの顧問ロータリアンに財団学友委員として連絡をし、たえずコミュニケーションが図れるようにしたいと思います。
 - (ハ) 仲前委員長が整備された財団学友会の名簿が完成次第各クラブのロータリー財団委員長及び歴代顧問ロータリアン(各クラブを通じて)並びに学友会OB全員に送付致

します。

(注) (1)のP S Cメンバー定例会議場の平野屋を8月より大阪国際交流センターホテル内レストランパンジーステンドの間に変更致します。開催月も2、4、6、8、10、12月と隔月開催致します。(第1金曜日 午後6時30分より)

研究グループ交換委員会

委員長	細江重	(大阪東淀)
委員	木村英一	(大阪住吉)
同	村上實	(池田)
同	増田鼎	(八尾)
同	東平介	(寝屋川)
同	大内昭男	(大阪鶴見)
同	横田喜久雄	(大阪東淀)
同	樞村泰信	(摂津)
同(ガバナ /ミニ)	大森慈祥	(茨木)

方針

1. 本年度にはG. S. E.は実施しないが前年度7690Dノースカロライナチームの受入れについての反省、並びに次年度には5650Dネブラスカとの受入れ派遣を単年度内に実施せねばならないので、可能な限りの準備に務める。
2. 5650DネブラスカとのG. S. E.は、1993(平成5)年秋に来阪、1994(平成6)年春に派遣との合意を得ているので、本年度末には派遣メンバーを決定し、来日受入れの時には合同活動するべく準備する。

3. 次々回のG. S. E. は1760D南フランス或は2400D南スウェーデンと組合せ希望が合致した段階であるが、進展実施させるよう鋭意交渉を重ねる。

計 画

1992年

- 7月 第1回委員会（委員会の統一方針の決定、ノースカロライナ受入れの反省）
- 8月 第2回委員会（ネブラスカとの受入れ派遣計画立案開始、派遣団募集計画開始）
- 9月 第3回委員会（受入れ地区内ブロック編成計画）
- 10月 第4回委員会（受入れ計画大綱完成、南フランス、南スウェーデン交渉）
- 11月 第5回委員会（受入れ計画実施開始、補助金申請作製）

1993年

- 2月 第6回委員会（派遣団員募集開始、受入れ計画の細部調整）
- 3月 1992～'93年度地区大会に於ける決議案作成。
- 4月 第7回委員会（受入れブロックのプログラム調整）
- 5月 第8回委員会（派遣団員選考、受入れ計画決定）
- 6月 派遣団員第1回オリエンテーション

米 山 奨 学 部 門

担当バスト・ガバナー 武 尾 敬之助 (大阪西北)

米 山 奨 学 委 員 会

アドバイザー 永 野 啓之介 (豊中-大阪
国際空港)
委員長 増 本 猛 (茨 木 東)
委員 渡 辺 斌 (東大阪中)
同 菅 晃 生 (大阪うつば)
同 崎 山 耕 作 (大阪住吉)
同 平 岡 龍 人 (大 阪)
同 板 垣 周 男 (豊中-大阪
国際空港)
同 三 好 三 郎 丸 (大阪天満橋)
同 渋谷 敏 郎 (大 阪 北)

I 募 金 目 標

- 1人当り 2万円
- 地区総額 約1億1千万円

(1) 普通寄付

1人当り、5千円以上をお願いします。

(2) 特別寄付

準功労者となつていただくようお願いすると共に、免税措置を強調し、米山フ
ァンドフェロー、米山功労法人の増加に努める。

II 1993学年度米山奨学生選考について

申し込み受付期間 10月1日～10月15日

米山記念奨学会より奨学金申込書のコピーがガバナー事務所に送付されたら専門委員

(ロータリアン)を委嘱し、12月に書類選考を行なう。'93年2月に、一般委員(ガバナー、ガバナーノミニー、地区担当理事、部門担当P.G、委員長)と専門委員にて面接試験を行う。(クラブ米山奨学金制度の受付け — 3月1日～3月11日、8月1日～8月15日)

Ⅲ 米 山 月 間 (10月1日～10月31日)

各クラブで、米山奨学生、クラブ米山奨学委員長による卓話を推奨する。依頼があれば地区委員、米山奨学生、学友を斡旋する。特別寄付の増加を推進する。

Ⅳ 1992学年度米山奨学生(1992年4月～1993年3月)

継続受給者	17名	延長1名
新規奨学生	学部奨学生	4名
	大学院	14名
	地区米山	A1名、B10名
	特別米山	(OB)3名
<hr/>		
50名		

奨学生には、諸会合に極力出席を奨励し、ロータリアンとの交流をはかる。

Ⅴ 米山学友会(関西)への援助

現及び元米山奨学生間の交流を通じて、親睦及び互助を促進する。米山奨学事業の発展に寄与することを目的として設立された米山学友会(関西)の活動を支援する。

Ⅵ 諸行事日程

- ・全国地区委員長会議(東京)(9月2日)
- ・クラブ委員長会議(9月4日)於薬業年金会館
- ・米山月間(10月1日～10月31日)
- ・1993学年度米山奨学生募集 10月1日～10月15日
- ・米山学友会(関西)交流会

- 米山奨学生レクリエーション（11月）
- 米山奨学生終了者歓送会（1993年3月7日） 於新阪急ホテル
- 新規米山奨学生オリエンテーション（5月）
- 地区委員会 5～6回/年

VII そ の 他

昨年度の重要活動方針として、現地選考の考え方促進について(財)米山記念奨学会への働きかけに努力しました。奨学会でも種々の委員会を開き討議されました。近い将来にこれを実現することは大変むづかしい状況ですが更に努力を進めてまいります。

拡 大 部 門

担当バスト・ガバナー 中 西 正 二 (大 阪 西)

拡 大 委 員 会

委 員 長	池 田 幹 雄 (大 阪 南)
カウンスラー	杉 本 一 三 (八 尾)
同	高 林 辰 行 (大 阪 西 北)
委 員	小 西 豊 和 (守 口)
同	森 藤 憲 一 (大 阪 城)
同	石 津 潤 司 (大 阪 大 手 前)

活 動 方 針

本年度のクラブ拡大については、少なくとも2クラブの設立を目標とするよう要請されているので、その達成に努力したい。

活 動 計 画

(1) 大阪市域南部及び西南部区域を重点として1クラブを新設すべく、すでに大阪南ロータリー・クラブは自らスポンサーとして、クラブ設立の可不可を検討して来られた。ついに前年度末にはクラブ拡大委員会を組織・編成して活発な活動を開始された。

新クラブの区域限界は、大阪南、大阪難波、大阪なにわ各ロータリー・クラブと共有する方向にあり、クラブ名、例会場等も近く成案を得られる模様。

(2) 大阪天満橋、大阪大手前ロータリー・クラブの区域限界内である大阪城東部方面は城見町を中心として、近年企業の集中著しく頓に殷賑の度を増している。

大阪大手前ロータリー・クラブは、本年恰も創立10周年を迎えるに当り、その記念事業の一環として、区域限界を共有する1クラブを設立すべく準備を進められてきた。去る年度末には、ガバナー特別代表に服部昌美会員を、ガバナー拡大補佐として、阪本昌三会員の両氏が委嘱され、拡大準備が着々と進行している。

(3) なお委員会は、北摂淀川左岸各都市の人口動態を研究しつつ、クラブ拡大の可能性を模索している。

ロータリーの友

地区委員 伊藤隆彦(大阪南)

I 「ロータリーの友」委員会

ロータリーの友委員会は原則として奇数月の第一月曜日に東京において開催されます。今年度は7月1日東京プリンスホテルにおいて、新地区委員オリエンテーション、新旧委員合同会議、懇親会を行い、新年度の諸事項を検討し併せて運営方針を決定いたします。

II 「ロータリーの友」への出稿

地区委員として「地区のたより」「わがまち・わが地区」のページの編集を担当します。

1. 地区のたより '93年5月号
2. わがまち・わが地区 '93年1月号

尚、一昨年まで毎7月号に掲載されました地区の概況は昨年より除かれました。

III 活動方針

山中文和ガバナーの方針の下ロータリーの友委員、地区広報雑誌委員長、クラブ雑誌委員長と協力して、親しみ易く、役に立つ「ロータリーの友」となるよう広く会員の投稿を呼びかけ、お願いしていききたいと思います。

財 務 委 員 会

委員長 池 田 一 郎 (大 阪 南)

委 員 西 田 文 明 (大 阪 北)

同 中 村 憲 次 (茨 木)

会 計 國 分 紀 一 (大 阪 南)

1. 1992～'93年度の収支予算は、収入（前期繰越金を含む）については、10,175万円と前年度より、575万円（6%増）多く計上した。支出については、各委員会の要求について充分考慮したが、全体的には8,769万円と前年度より、251万円（2.8%減）の減少となった。

2. 収 入

- (1) 前年繰越金については、直近の実算に基づき前年度より200万円増の1,700万円とした。
- (2) 地区資金についても、前年度データを分析して、250名の会員増加を見込み5,550人、前年度より375万円の増加とした。

3. 支 出

前年度予算及び実績並びに本年度事業計画を参考とし、一部の委員会について増額または減額した。

(1) 広報雑誌委員会

「ビデオ・スライド銀行」の製作は、前年で終わったのでこの分300万円の減額とした。

(2) 社会奉仕委員会

社会奉仕事例集の刊行を予定しているの、前年度より18万円の増額とした。

(3) インターアクト委員会

インターアクトクラブを1クラブ結成する予定なので、その費用として40万円増額した。

(4) ローターアクト委員会

30万円増額した。

(5) 研究グループ交換委員会

今年度は受入年度ではないが、オリエンテーションを4回中3回開く費用と、選考委員会の費用を予算計上するに止めた為、532万円の減額とした。

(6) 拡大委員会

5万円の増額とした。

(7) 会議費は、地区委員会の分を40万円増額するに止めた。

(8) ガバナー事務所経費については、前年度より267万円(10.7%増)増額したが、主に人件費と借室料である。

4. 以上種々の角度より検討し本年度予算を作成しましたが、各委員会におかれましても、予算内の執行にご協力を賜りたく、お願いを申し上げる次第であります。

地 区 大 会

委員 長 酒 井 芳 申
プログラム
委員 長 久 我 三 郎
幹 事 新 田 精 一

(1) 前年度が始まると同時に、ガバナー、地区代表幹事とプログラム委員会を中心とするメンバーで打合せ会を発足させ、ガバナーの基本方針を十分に確認しながら全体の構想を練って来ました。更に本年5月からこれを実行委員会に移し、細部に亘って検討し逐一実行に移していく予定です。

(2) 地区大会の日程及び開催場所

平成5年(1993年)4月23日(金) 於 ロイヤルホテル

会長・幹事懇談会

部門別懇談会

R I 会長代理歓迎晩餐会

夫人プログラム

平成5年(1993年)4月24日(土) 於 フェスティバルホール

本 会 議

尚、記念ゴルフ大会は、4月22日(木) 茨木カントリークラブにて行います。

(3) 地区大会の内容については、過去の当地区、他地区の大会運営を参考にしながら、ガバナーの“楽しい地区大会”と云う基本方針に添い、形式にとらわれない、楽しくかつ有意義な、参加者の心に残る大会にしたいと思います。

(4) 地区大会事務局

〒542 大阪府中央区難波5-1-5 (株)高島屋本社秘書室

大阪南ロータリークラブ事務局内

電 話 06-631-1262

FAX 06-631-9851

以 上

1992～93年度 国際ロータリー第2660地区

収 支 予 算 書

作成 1992年 3月31日

承認 1992年 5月 9日

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算
前 期 繰 越 金	17,000,000	15,000,000
R. I. 交 付 金	800,000	800,000
地 区 資 金 (15,000×5,550人)	83,250,000	79,500,000
雑 収 入	700,000	700,000
合 計	101,750,000	96,000,000

ガバナー 山 中 文 和
 財務委員長 池 田 一 郎
 会 計 國 分 紀 一

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	
地区ガバナー指名委員会	200,000	200,000	
意義ある業績賞委員会	50,000	50,000	
クラブ奉仕部門	会員増強委員会	200,000	200,000
	広報雑誌委員会	500,000	3,500,000
	規定情報委員会	700,000	700,000
職業奉仕部門	職業奉仕委員会	400,000	400,000
	ボランティア活動委員会	150,000	150,000
社会奉仕部門	社会奉仕委員会	1,950,000	1,770,000
	環境保全委員会	250,000	250,000
青少年奉仕部門	青少年奉仕委員会	2,600,000	2,600,000
	インターアクト委員会	3,200,000	2,800,000
	ローターアクト委員会	5,700,000	5,400,000
国際奉仕部門	世界社会奉仕委員会	200,000	200,000
	青少年交換委員会	500,000	500,000
	国際平和交流委員会	250,000	250,000
ロータリー財団部門	ロータリー財団委員	100,000	100,000
	国際親善奨学金委員	1,500,000	1,500,000
	研究グループ交換委員会	1,300,000	6,620,000
	財団増進委員会	240,000	240,000
	財団学友委員会	600,000	400,000
米山奨学部門	米山奨学委員会	700,000	500,000
拡大部門	拡大委員会	200,000	150,000
委員会活動予備費	900,000	900,000	
計	22,390,000	29,380,000	
会 議 費	地区大会補助	310,000	310,000
	地区協議会補助	310,000	310,000
	地区委員会	3,500,000	3,100,000
	ガバナー打ち合わせ会議費	2,100,000	2,100,000
	R. I. 会長記念品代	160,000	160,000
	R. I. 会長歓迎費	370,000	370,000
	直前ガバナー記念品代	260,000	260,000
	ガバナーノミニ国際会議参加補助	830,000	830,000
	予備費	800,000	800,000
	計	8,640,000	8,240,000
	日本国内地区ガバナー会…(200円×5,550人)	1,110,000	1,060,000
	ロータリー文庫協力費……(300円×5,550人)	1,665,000	1,060,000
	地区大会分担金………(3,000円×5,550人)	16,650,000	15,900,000
ガバナー月信	製版・印刷・送料・ホルダー	9,400,000	9,400,000
印刷費	予備費	300,000	300,000
計	9,700,000	9,700,000	
ガバナー事務所経費	27,540,000	24,869,000	
合 計	87,695,000	90,209,000	
次 年 度 繰 越 金	14,055,000	5,791,000	

	'92年12月末	'92年2月末
クラブ数	74	74
会員数	5,550(予)	5,437

(備考) 社会奉仕委員会予算のうち1,000,000円は、他部門と合同で行う活動に要する費用である。

(単位：円)

ガバナー事務所経費内訳		
科 目	予 算 額	前年度予算額
借室料・光熱費	5,160,000	4,429,000
賃金給料	12,920,000	11,400,000
ガバナー交通通信費	1,300,000	1,240,000
印刷費	1,600,000	1,650,000
交通通信費	2,400,000	2,300,000
文 献 費	160,000	150,000
事務用消耗品費	1,100,000	1,000,000
什器備品費	600,000	500,000
雑 費	1,800,000	1,700,000
予 備 費	500,000	500,000
合 計	27,540,000	24,869,000



